

平成 21 年度温室効果ガス排出量算定方法検討会（第 2 回） 議事概要

日 時：平成 22 年 3 月 1 日（月） 15:00～16:45
場 所：経済産業省別館 1111 会議室
出席委員：大聖座長、天野委員、板橋委員、浦野委員、柏木委員、酒井委員、森口委員
国立環境研究所インベントリオフィス（GIO）：野尻マネージャー
環 境 省：高橋地球温暖化対策課長、小野研究調査室長、清丸地球温暖化対策課課長補佐、
山本地球温暖化対策課課長補佐

1. 開会

- 環境省（清丸課長補佐）
 - ・ 平成 21 年度第 2 回温室効果ガス排出量算定方法検討会を開始させていただく。なお、本日の審議は公開としている。
- 環境省（高橋課長）
 - ・ 本来は寺田地球環境局長が挨拶をする予定であったが、都合により出席できなくなったため代わりにご挨拶をさせていただく。前回の開催は 7 月であったが、政権交代や COP15 もあり、温暖化対策を巡る情勢は変化してきており、進展を見せつつも課題が多いという状況である。また、現在、地球温暖化対策基本法の調整が最終段階に来ているが、それを含めた国内対策や、COP16 に向けた国際交渉について、課題が多いところである。インベントリは国内対策の基礎となるものであり、また京都議定書の目標の遵守にも関わってくるものであることから、大変重要なテーマである。関係省庁、関係機関にご協力いただいているところであるが、インベントリ作成の作業をいかに効率的に進めていくかということも含め、今後ともご指導を賜りたい。
 - ・ 昨年 11 月に 2008 年度温室効果ガス排出量の速報値を発表したが、排出量はリーマンショックの影響で前年度に比べ大きく落ち込んでいる。4 月に確定値を出す予定であるが、2008 年度確定値ということで、京都議定書の目標の遵守に直接関わる重要な数字である。それを踏まえ、排出量の計算に我が国の削減努力を反映する、国連の審査で指摘された事項に適切に対応するなど、細かいところも含めてインベントリの算定方法の見直しを行っているところである。これまで各分科会で審議・検討を行った成果を本日の検討会で集約していただき、4 月に国連へ提出する予定のインベントリの算定方法について、とりまとめていただきたい。
 - ・ 統計の早期化についても関係省庁にご協力いただき取り組んでいるところであり、その状況についてご報告させていただく。また、今年から新しい取り組みとして、国連の審査での指摘に対応するため、インベントリの品質保証（Quality Assurance: QA）について品質保証ワーキンググループを開催したことから、その状況も報告させていただく。

2. 議事

(1) 2010年に提出するインベントリ(2008年度分)の算定方法等について

- 環境省(清丸課長補佐)
 - ・ 資料1に基づき、2010年に提出するインベントリ(2008年度分)の算定方法等について説明。

- 大聖座長
 - ・ 各分科会における算定方法の改善についての検討結果を各分科会の座長からご報告いただきたい。質疑応答については全ての分科会の報告が終わった後に行わせていただきたい。

- 森口委員：資料3-1に基づき、インベントリWGにおける分野横断的課題についての検討結果を報告。
- 柏木委員：資料3-2に基づき、エネルギー・工業プロセス分科会における算定方法の改善についての検討結果を報告。
- 大聖座長：資料3-3に基づき、運輸分科会における算定方法の改善についての検討結果を報告。
- 板橋委員：資料3-4に基づき、農業分科会における算定方法の改善についての検討結果を報告。
- 浦野委員：資料3-5に基づき、HFC等3ガス分科会における算定方法の改善についての検討結果を報告。
- 酒井委員：資料3-6に基づき、廃棄物分科会における算定方法の改善についての検討結果を報告。
- 天野委員：資料3-7に基づき、森林等の吸収源分科会における算定方法の改善についての検討結果を報告。

- 大聖座長
 - ・ 以上についてご質問やコメントがあればいただきたい。

- 大聖座長
 - ・ 資料3-1について、炭素の湧き出しとは物理的にはどのようなものか。
- 森口委員
 - ・ 統計上において、炭素の投入量よりも産出量の方が大きくなっている状況のことで、具体的にはコークス炉に投入した原料炭及びその他原料に含まれる炭素量より、産出されるコークス、コークス炉ガス、ガス軽油等に含まれる炭素量の方が計算上多くなっている状況を指す。エネルギー量で見るとロスがあるため、投入より産出の方がやや低い数字になっているが、炭素量については、ロスが0であるとしても投入量より産出量の方が大きくなることは有り得ない。しかし統計上はそうになってしまっていたということである。最新の統計では投入量より産出量の方が小さくなっており、現時点では問題は軽減されたが、今後も引き続き注視していく必要はある。

- 大聖座長
 - ・ LPG の炭素排出係数に変更になったが、何が原因か。LPG を構成するプロパン・ブタンの比が変わったということか。
- 柏木委員
 - ・ その通りである。

(2) インベントリ確定値・速報値の発表早期化について

- 環境省（清丸課長補佐）
 - ・ 資料 4 に基づき、インベントリ確定値・速報値の発表早期化について説明。

(3) インベントリ品質保証ワーキンググループについて

- GIO（野尻マネージャー）
 - ・ 資料 5 に基づき、インベントリ品質保証ワーキンググループ（QAWG）について説明。
- 大聖座長
 - ・ 全分野についてローテーションで QAWG を行うことになるのか。
- GIO（野尻マネージャー）
 - ・ 何年かかけて全分野の QAWG を済ませるべき、と考えている。
- 浦野委員
 - ・ 各分科会で指摘に対応するためには、出来る限り早めに指摘事項を頂く必要があるが、現時点での QAWG のスケジュールはどうなっているのか。
- GIO（野尻マネージャー）
 - ・ QAWG を実施した後、直ちに次に提出するインベントリに、QAWG での指摘内容を反映させるかどうかについては、いただいた指摘の内容により判断を行っている。検討会での検討が必要ではない指摘は直ちにインベントリに反映させるが、そうではない指摘については、検討会で検討をいただくことになる。急いでインベントリに反映させる必要がある重大な指摘については、対応方針についての検討を急ぐ必要が出てくるが、今年についてはそのような指摘はなかった。
- 浦野委員
 - ・ 毎年の QAWG のおおよそのタイムテーブルはわかるのか。
- 環境省（清丸課長補佐）
 - ・ 毎年の決まったスケジュールは存在しない。国連の審査での指摘は、「QA の体制は存在するか」というものであり、何月に QAWG を行っているか、ということは聞かれていない。ただ、専門家審査チームから QAWG の実施時期を聞かれた場合は、平成 21 年度は 6 月から 11 月にかけて実施した、と回答することになる。いつ実施するかというご質問への回答としては、昨年度と同様に 6 月に委員を選定し、夏から秋にかけて検討を行っていただく、ということを考えている。ただ、インベントリに対しコメントができる適任者がいるか、ということが問題である。

- GIO（野尻マネージャー）
 - ・ 委員に検討を行っていただくための資料は、主に日本国温室効果ガスインベントリ報告書（NIR）と共通報告様式（CRF）になるが、これらは4月に作成を行い国連に提出することになることから、その後5、6月頃から検討を行っていただくというタイムスケジュールは大筋で変わらないと思われる。
- 大聖座長
 - ・ QAの結果については、どの程度詳細に国連に報告を行うのか。
- GIO（野尻マネージャー）
 - ・ 国連への報告については定型的に決まったものはない。QAの活動を行っていること自体が重要であり、行っていることを報告する。QAの活動を行うのであれば、しっかりと行うことが大事である。
- 大聖座長
 - ・ QAWGにおける指摘事項は多かったのか。
- GIO（野尻マネージャー）
 - ・ 委員からの指摘事項は多く、かなり詳細に検討をいただいております。労働量も多くなってしまったと思っている。委員への負荷を下げするために、事前の委員への説明に工夫が必要であると考えている。

（４）その他

- 環境省（山本課長補佐）
 - ・ 参考資料2に基づき、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく算定方法の見直しについて報告。

3. 閉会

- 環境省（清丸課長補佐）
 - ・ 今後は各省庁からいただいた統計を基にGIOでインベントリを作成し、来月の国連への提出を目指すことになる。来年度以降については引き続き算定方法の改善について検討を進めていく。
 - ・ 議事概要を事務局で作成し、後日委員に確認して頂いた後、ホームページで公開する。

（以 上）